

希学園 第401回 小2公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第401回公開テスト 小2国語 解説動画(2025年10月12日実施)	https://vimeo.com/1126032108/9863231c6e

① 月見
② 生えた
③ 左右

④ くさばな
⑤ げこう

② 大
① 1
② えもの

③ なかま
④ におい

⑤ I 2
II 1

③ ① オ
② ア
③ カ
④ イ
⑤ エ
⑥ ク

④ ① にがて

② とくい

③ ク
④ ウ

⑤ とくいだった

⑥ かけっこ

配点

① 各2点×5=10点

②～④ 各5点×18=90点

<計>100点

①の「見」を「貝」のようにしてはいけない。秋の十五夜のお月見のときにはススキをかざって団子や芋などをお供えする。②の「生」には読みが多くあって「セイ・シヨウ・い(きる)・う(まれる)・お(う)・は(える)・き・なま」などと読む。③「左右」は漢字の順番を入れかえると「みぎひだり」と読む。④「草花」の「花」は「ばな」とに読む。草に咲く花、(美しい)花の咲く草のこと。⑤「下校」は生徒らが帰宅するため学校を出ること。反対語は登校。

② 栗林 慧『科学のアルバム アリの世界』より (設問の都合上、表記の一部を変更しています)

1 「一ぴきでは運べないほど」「えもの」がどうなのかと考える。少し前に「小さなえものはくわえて」「もちかえります」とあったこともヒントになっている。

2 「案内役のアリ」が「えもの」や「蜜」のところに「なかま」を「案内」するのであった。「三字」の「ぬき出し」なら「えもの」になる。

3 「それがわかる」となっているので、「瞬間的におたがいの触角がふれあっただけで」何が「わかる」のかと考える。「おたがいがなかまであること」を、おいでたしかめあいます」とあった。「触角」で「に」をたしかめることで、「であったアリ」が「なかま」だと「わかる」のである。

4 「アリ」が「もどってくる」ことができるのも「も」に注目できたろうか。前の段落には「に」で「なかま」と「わかる」ということが書かれていた。「もどってくる」ことができるのも「に」のおかげなのである。「でかけ」るときに「地面にしりをつけて」自分の「に」を「くっつけている」ので、巣にもどるときにその「に」がたよりになる。おしりの「に」がみちしるべになっている。

5 I 問いの文をしっかりと読んでほしい。「もちあげて運ぶことができる」のは「二倍以上」の「えもの」である。「十倍」の「えもの」は「引きずって運ぶ」ほうであった。本文中に「二倍以上」と「十倍」の二つが出てきていた。どちらがうのかを気にして読んでいけば、「もちあげて」に注目できたはずである。

II 本文の一行目にはつきりと書いてある。そして自分だけでは「運べないほど(大)きいとき」や「たくさん蜜がある」ときは「なかに知らせ、その場所まで案内」するのであった。

③ 数え方(助数詞)の問題である。ほかにもどんなものがあるか調べてみよう。

① 頭……牛や馬やゾウやキリンなど大きな動物を数えるときにつかう。匹は虫や魚や大きくない動物に用いる。

② 軒……家の数え方には他にも一戸、二戸とか一棟、二棟というのがある。

③ 枚……紙や板や布や皿など薄くて平たいものを数えるときにつかう。貨幣(十円玉など)や田んぼも枚と数える。

④ 隻……大きな船を数えるときにつかう。小さな船は一そう、二そうと数える。

⑤ 足……靴やくつしたを数えるときにつかう。左右のひとそろいを合わせて一足となる。

⑥ 丁……豆腐は一丁、二丁と数える。天井や野菜炒めなど料理一人前も一丁、二丁と数える。

※ 膳は一对の箸や茶碗に盛ったご飯を数えるときに、輪は花などを数えるときにつかう。

④ そうまこうへい『お父さんのVサイン』より (設問の都合上、表記の一部を変更しています)

1 「とくいやないの?」「うん、にがて」とあった。本文通読の際に気づいておいてほしい。漢字だと得意と苦手になる。

2 「小学生のころ」は「いつも一とうだった」つまり「とくいだった」わけで、そのあとに「でも、いまは」とある。「とくいやない」のである。

3 「シヨック」はもともと物がぶつかったりしたときの衝撃のことである。そこから心のことにも用い、ひどくおどろいて動揺するという意味になっている。「お父さん」が自分で「かけつがとくい」といつていたので、「お父さんリレー」に「でる」と「クラスのみんな」に「いっちゃった」のに、「すぐくふとっちゃったから」「はやく走るじしんない」と聞いておどろいている。

4 「あい」が「(クラスの)みんな」にしちゃったことである。「リレー」はこれからだし「あい」が「でる」わけではないので、勝ったり負けたりするはずがない。

5 「せいかくにいわなかった」というのは、正しくいわなかった、つまり、まちがっていたということである。空さんのすぐ前の「小学生のころは」がヒントになっている。むかしは「とくいだった」と「いべきだったのに」「とくいだ」と「いってしまった」のである。

6 「リレー」や「うんどう会」では字数に合わない。答えがはなれたところにあっても通読の際にしっかりと読むことができなければ、見つけられただけである。